

文化人類学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
文化人類学特論Ⅰ	東南アジアの文化人類学	2	片岡 樹	集中(1学期)			1	文化人類学特論Ⅰ
文化人類学特論Ⅱ	中東イスラーム人類学	2	相島 葉月	集中(1学期)			2	文化人類学特論Ⅱ
文化人類学研究演習Ⅰ	文化人類学の視野と思考	2	川口 幸大	1学期	月	3	3	文化人類学研究演習Ⅰ
文化人類学研究演習Ⅱ	文化人類学の視野と思考	2	川口 幸大	2学期	月	3	4	文化人類学研究演習Ⅱ
文化人類学研究演習Ⅲ	英語古典原書講読	2	沼崎 一郎	2学期	木	2	5	文化人類学研究演習Ⅲ
文化人類学研究実習Ⅰ	フィールドワークの理論と方法	2	沼崎 一郎	1学期	水	3・4	6	文化人類学調査実習Ⅰ
文化人類学研究実習Ⅱ	フィールドワークの理論と方法	2	沼崎 一郎	2学期	水	3・4	7	文化人類学調査実習Ⅱ

科目名：文化人類学特論 I / Cultural Anthropology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期集中 その他 連講

学期：集中(1 学期)， **単位数：**2

担当教員：片岡 樹（非常勤講師）

講義コード：LM98813, **科目ナンバリング：**LGH-CUA601J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 文化人類学特論 I 】

1. 授業題目：

東南アジアの文化人類学

2. Course Title (授業題目)：

Cultural Anthropology of Southeast Asia

3. 授業の目的と概要：

文化人類学というのは、身近な素材を用いて新たな発見を行う学問である。本講義では、我々にとって似て非なる隣人である東南アジアの事例から、文化人類学による異文化理解の可能性を考えるとともに、文化人類学の概念群を用いて東南アジア社会の等身大の理解をめざす。文明の交差点とも言うべき東南アジアは、世界の文化的多様性の見本市であり、そこからは社会組織、民族、宗教、国家などに関し多くのユニークな問題提起がなされてきた。本講義では、そうしたトピックの中から、東南アジア社会の独自性を理解する上で重要な論点を紹介し、あわせてそれらが人類学理論全体に与えたインパクトも検討する。

4. 学習の到達目標：

1. 東南アジアを対象とする人類学的研究について、基本的な知識を身につける。
2. 東南アジアの人類学的研究を人類学全体の議論とつなげて考え、自分なりに検討できるようになる。
3. 人類学的アプローチを用いて現代東南アジアの諸問題を考える視座を涵養する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文明の交差点としての東南アジア
2. 東南アジアの宗教（仏教）
3. 東南アジアの宗教（仏教）
4. 東南アジアの宗教（イスラム教）
5. 東南アジアの宗教（イスラム教）
6. 東南アジアの宗教（キリスト教）
7. 東南アジアの宗教（キリスト教）
8. 東南アジアの民族（平地社会）
9. 東南アジアの民族（山地社会）
10. 東南アジアの民族（華僑社会）
11. 東南アジアの国家（伝統的国家）
12. 東南アジアの国家（王権）
13. 東南アジアの国家（国民統合問題）
14. 東南アジアの国家（文化人類学から読み解く現代政治）
15. まとめ

6. 成績評価方法：

平常点 60%、レポート 40%

平常点は授業時に配布されるリアクションシートへの記入を以て評価にあてる。

レポートは講義最終日に教室内で記入する形式とする。その準備として、下記の課題図書を読んでおくことが望ましい。

7. 教科書および参考書：

教科書は特に定めず、授業内容の理解を深める上で有益な文献は授業時に随時紹介する。

参考図書として、宮原暁編『東南アジア地域研究入門 2 社会』（慶應義塾大学出版会）をあげておく。

8. 授業時間外学習：

最終日のレポート課題は、受講生が上記参考書を読んでいる前提で課することになるので、あらかじめ目を通し、特に気に入った章を選んでおくこと。

9. その他：なし

科目名：文化人類学特論Ⅱ／ Cultural Anthropology (Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

学期：集中(1 学期)， **単位数：**2

担当教員：相島 葉月 (非常勤講師)

講義コード：LM98814, **科目ナンバリング：**LGH-CUA602J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 文化人類学特論Ⅱ 】

1. 授業題目：

中東イスラーム人類学

2. Course Title (授業題目)：

Anthropology of Islam and the Middle East

3. 授業の目的と概要：

社会人類学のアプローチを利用して、中東に住むムスリム（イスラーム教徒）の社会と文化を動態的に把握する方法を検討します。一般的に「中東」とはイランから北アフリカの辺りの地域を指しますが、本講座では、エジプトを中心とした現代アラブ諸国の事例を主に取り上げます。歴史学や思想研究が文献資料を利用してデータを収集するのに対し、社会人類学はフィールドワーク中に行ったインタビューや参与観察をもとに議論を組み立てます。人類学は調査地での人々との出会いに重点を置くことから、大衆の視線を意識した学問であるという自負があります。しかし、「百聞は一見にしかず」とは言え、調査地で見たこと、聞いたことを全て記述すれば「活きたイスラーム」の理解につながる訳ではありません。中東やイスラームを扱った民族誌の考察を通じ、異文化理解の面白さや難しさを学びます。

4. 学習の到達目標：

1. 中東諸国の文化と社会の主な特徴を把握する。
2. 中東地域への社会人類学的なアプローチの基本的なを理解し、問題点を検討する。
3. 中東とそれ以外の地域のムスリム社会を比較する方法論を検討する。

5. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1：はじめに—中東・イスラームへの人類学的アプローチ
- 2：中東をめぐるイメージの系譜
- 3：中東の宗教と民族
- 4：イスラームとムスリム
- 5：イスラーム世界の多様性
- 6：スーフィズム
- 8：スンナ派とシーア派
- 7：イスラーム復興とジェンダー
- 9：伝統と近代
- 10：イスラーム主義
- 11：世俗主義
- 12：近代国家とマスメディア
- 13：アラブの春と若者
- 14：グローバル化する中東と「文化」をめぐる政治
- 15：総括

6. 成績評価方法：

リアクションペーパー40％ 講義が終わる30分前に、その日に学んだことや気づいたことをA4一枚にまとめ、提出してください。

書評60％ イスラームに関する入門書を図書館や書店で探して書評を提出してください。(A4二枚～五枚)

7. 教科書および参考書：

小杉泰、黒田賢治、二つ山達朗編『大学生・社会人のためのイスラーム講座』ナカニシヤ出版

西尾哲夫「イスラームの語源は『平和』か—中東地域における文化資源の現代的変容と個人空間の再世界化の研究にむけて」『民博通信』163, 2018, pp. 4-9.

8. 授業時間外学習：

イスラームに関する入門書を読んで、書評を作成する。

9. その他：なし

イスラームに関する入門書の例

小杉泰『イスラームとは何か—その宗教・社会・文化』講談社現代新書、1994年

大川玲子『聖典「クルアーン」の思想—イスラームの世界観』講談社現代新書、2004年

大塚和夫『イスラーム的一世界化時代の中で』講談社学術文庫、2015年

内藤正典『となりのイスラーム—世界の3人に1人がイスラーム教徒になる時代』、ミシマ社、2016年

椿原敦子・黒田賢治『「サトコとナダ」から考えるイスラーム入門—ムスリムの生活・文化・歴史』星海社新書、2018年

講義予定は諸般の事情により変更することもあります。

科目名：文化人類学研究演習Ⅰ／Cultural Anthropology(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

学期：1学期，単位数：2

担当教員：川口 幸大（准教授）

講義コード：LM11302，科目ナンバリング：LGH-CUA605J，使用言語：日本語

【（平成30年度以前入学者）対応科目名：文化人類学研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

文化人類学の視野と思考

2. Course Title（授業題目）：

Cultural Anthropology(Advanced Seminar)Ⅰ

3. 授業の目的と概要：

文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。

4. 学習の到達目標：

文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。

最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 研究動向の整理と検討
3. 研究動向の整理と検討
4. 文献講読
5. 研究動向の整理と検討
6. 研究動向の整理と検討
7. 研究動向の整理と検討
8. 文献講読
9. 研究動向の整理と検討
10. 研究動向の整理と検討
11. 研究動向の整理と検討
12. 文献講読
13. 研究動向の整理と検討
14. 研究動向の整理と検討

15. 最終報告

6. 成績評価方法：

発表[40%]、出席[20%]、最終レポート[40%]

7. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。

9. その他：なし

科目名：文化人類学研究演習Ⅱ／ Cultural Anthropology(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：川口 幸大 (准教授)

講義コード：LM21303, **科目ナンバリング：**LGH-CUA606J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 文化人類学研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

文化人類学の視野と思考

2. Course Title (授業題目)：

Cultural Anthropology(Advanced Seminar)Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで主要な概念と関心の動向を検討する。自身の研究論文および修士論文の理論的背景と先行研究のレビュー欄の記述につなげられるようになることが目的である。

4. 学習の到達目標：

文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。

最終的には、自身の修論もしくは研究論文における理論的背景および先行研究のレビューを完成させる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 研究動向の整理と検討
3. 研究動向の整理と検討
4. 文献講読
5. 研究動向の整理と検討
6. 研究動向の整理と検討
7. 研究動向の整理と検討
8. 文献講読
9. 研究動向の整理と検討
10. 研究動向の整理と検討
11. 研究動向の整理と検討
12. 文献講読
13. 研究動向の整理と検討
14. 研究動向の整理と検討
15. まとめ

6. 成績評価方法：

発表[40%]、出席[20%]、最終レポート[40%]

7. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。

9. その他：なし

科目名：文化人類学研究演習Ⅲ／ Cultural Anthropology(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LM24205， 科目ナンバリング：LGH-CUA607J， 使用言語：日本語

【（平成30年度以前入学者）対応科目名： 文化人類学研究演習Ⅲ 】

1. 授業題目：

英語古典原書講読

2. Course Title（授業題目）：

Classics in Cultural Anthropology

3. 授業の目的と概要：

文化人類学の古典であるフランツ・ボアズ『未開人の心性』改訂版（1938）の原書を精読し、学術的に正確な訳文を作成するという作業を通して、文化人類学における英語古典の精密な訳読の技法を習得する。

今セメスターは、第6章から第8章までを訳出する。底本には、メルヴィル・ハースコヴィッツの序文のある Free Press 版（1965）を用いる。

4. 学習の到達目標：

- （1）学術的な英文の正確な訳読力を身に付ける。
- （2）文化人類学の古典の息吹に触れる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：導入、授業法式の説明

第2回：テキスト訳出 P.99-102

第3回：テキスト訳出 P.103-106

第4回：テキスト訳出 P.106-109

第5回：テキスト訳出 P.110-112

第6回：テキスト訳出 P.113-116

第7回：テキスト訳出 P.117-120

第8回：テキスト訳出 P.121-124

第9回：テキスト訳出 P.125-128

第10回：テキスト訳出 P.129-132

第11回：テキスト訳出 P.132-136

第12回：テキスト訳出 P.137-140

第13回：テキスト訳出 P.141-143

第14回：テキスト訳出 P.144-147

第15回：テキスト訳出 P.148-149

定期試験は実施しない。

6. 成績評価方法：

下訳の作成と授業時の訳文の修正作業への参加（50％）、訳注の作成（50％）による。

7. 教科書および参考書：

Franz Boas, The Mind of Primitive Man, Revised Edition, with a new foreword by Melville J. Herskovits. New York: Free Press, 1965.

8. 授業時間外学習：

毎週、2頁ほどの英文の下訳を作成する。

授業での議論に基づいて、下訳を修正する。

訳注作成のための資料収集と分析を行う。

9. その他：なし

Prepare translations for 2 pages of the text each week.

Participate in classroom discussion on translations.

Collect and analyze materials for creating footnotes to translations.

科目名：文化人類学研究実習Ⅰ／Cultural Anthropology(Field Research)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 3講時. 前期 水曜日 4講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：沼崎 一郎 (教授)

講義コード：LM13311, **科目ナンバリング：**LGH-CUA608J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 文化人類学調査実習Ⅰ】

1. 授業題目：

フィールドワークの理論と方法

2. Course Title (授業題目)：

Theory and Method of Fieldwork

3. 授業の目的と概要：

文化人類学的調査に必要な基礎技術を、実際の訓練を通して習得し、様々な場面での応用について議論を通して学習する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 文化人類学的な調査技法の習得。
- (2) 文化人類学的な調査技法の応用力の涵養。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：導入 授業方法の説明

第2回：研究倫理1 特に人類学的フィールドワークの倫理

第3回：研究倫理2 特に調査報告執筆における倫理

第4回：研究方法1 非参与観察

第5回：研究方法2 参与観察

第6回：研究方法3 非構造的インタビュー

第7回：研究方法4 構造的インタビュー

第8回：研究方法5 ライフヒストリー法

第9回：研究方法6 文献データの収集法

第10回：研究方法7 音声データの収集法

第11回：研究方法8 映像データの収集法

第12回：分析方法1 質的データの分析法

第13回：分析方法2 量的データの分析法

第14回：分析方法3 映像・音声データの分析法

第15回：分析方法4 文字データの分析法

定期試験は実施しない。

なお、この予定は、受講生のニーズに応じて変更する場合がある。

6. 成績評価方法：

平常点 (50%) と研究計画書 (50%) による。

7. 教科書および参考書：

適宜、教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

自身の研究に必要な文献収集と文献読解を行い、毎回授業前に進捗状況を報告するレジメを作成する。

9. その他：なし

授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。

科目名：文化人類学研究実習Ⅱ／ Cultural Anthropology(Field Research)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 3講時, 後期 水曜日 4講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LM23310, **科目ナンバリング：**LGH-CUA609J, **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 文化人類学調査実習Ⅱ】

1. 授業題目：

フィールドワークの理論と方法

2. Course Title (授業題目)：

Theory and Method of Fieldwork

3. 授業の目的と概要：

文化人類学的調査結果を報告書にまとめるために必要な基礎技術を、実際の訓練を通して習得し、様々な場面での応用について議論を通して学習する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 文化人類学的な調査技法の習得。
- (2) 文化人類学的な調査報告執筆法の習得。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：導入 授業方法の説明

第2回：エミックとエティック 「事実」と「解釈」の多重性

第3回：民族誌的記述1 参与観察の記述

第4回：民族誌的記述2 インタビューの記述

第5回：民族誌的記述3 文献資料の利用

第6回：民族誌的記述4 映像・音声データの利用

第7回：民族誌的考察1 「事実」と「解釈」

第8回：民族誌的考察2 先行研究との「事実」の対比

第9回：民族誌的考察3 先行研究との「解釈」の対比

第10回：民族誌的考察4 「事実」と「解釈」の総合的考察

第11回：論文執筆法1 「事実」と「解釈」の書き分け

第12回：論文執筆法2 論文の文体

第13回：論文執筆法3 論文の形式

第14回：論文執筆法4 パラフレーズの活用法

第15回：論文執筆法5 直接引用の活用法

定期試験は実施しない。

なお、この予定は、受講生のニーズに応じて変更する場合がある。

6. 成績評価方法：

平常点（50％）と研究実習報告書（50％）による。

7. 教科書および参考書：

適宜、教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

自身の研究に必要な文献収集と文献読解を行い、毎回授業前に進捗状況を報告するレジメを作成する。

9. その他：なし

前期の文化人類学調査実習Ⅰを必ず履修していること。

授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。